

議長
確認印

総務常任委員会会議録

1 日 時	開会 令和3年7月13日 10:50 閉会 令和3年7月13日 13:00
2 場 所	埴中学校・埴町学校給食センター
3 出席委員	七宮広樹、鈴木元久、鈴木 茂、青砥與藏、吉田広明 金澤太郎、割貝寿一
4 欠席委員	なし
5 出席要求者 (説明員)	学校教育課長、学校給食センター所長、学校教育課長補佐兼学校教育係長、 管理係長
6 職務出席者	書記
7 付議事件	第1 GIGA スクール授業の概要について 第2 学校給食センターの概況について
8 議事の経過	<p>(埴中学校会議室にて)</p> <p>鈴木元久副委員長開会 七宮広樹委員長あいさつ 埴中学校長あいさつ(あいさつ後、退席)</p> <p>第1 GIGA スクール授業の概要について 委員長：担当課長より説明を求める。 (学校教育課長が資料に基づき説明) 委員長：何か質疑はあるか。 金澤委員：サーバーの設置は考えているのか。 管理係長：クラウドでデータ管理している。 金澤委員：「まなびポケット」どの程度の容量でどのような仕組みか。 管理係長：詳細についての確認取っていない。 金澤委員：確認取る際に、まなびポケットのソフトウェア自体を各端末に常に最新の状態にインストールしておいて利用できるタイプのクラウドサービスなのかを含めて確認を。 吉田委員：電子黒板について、タブレットと同時に購入しなかったのはなぜか。 学校教育課長：令和3年度当初予算要求では各クラス1台設置を考えていたが、1台が高額であり、補助事業を探していたが対応するものがなかった。そのため、当初予算では計上しないことと一旦したが、タブレットと電子黒板はセットの考えのもと計上することとなった経緯がある。 吉田委員：中学校でプログラミング教育をどの程度導入するかの考えは。 学校教育課長：その部分は調査していない。 吉田委員：せっかくシステム導入したのだから、クラブ活動など別枠で使用・活用することができるよう要望する。 委員長：その他あるか。</p>

金澤委員：インターネット回線敷設だが、各小学校・中学校それぞれ1本という考えでよいか。

また、認証装置だがソフトウェア的なものかハードウェア的なものか。

管理係長：それぞれ1本である。職員室にハードウェア的なものを整備している。

金澤委員：キーボードだが、かな打ち・ローマ字打ちどちらで教育していくのか。

学校教育課長：その部分は検討していない。今後考えていく。

鈴木茂委員：タブレットを体育の授業で使うことは。

学校教育課長：小学校は把握していないが、中学校では体育の授業でタブレットを使用したことある。

青砥委員：スタートしたばかりなので、一つひとつ着実にやっていくことが大事。足りない部分を補充する考えで。

割貝議長：一挙にタブレットを活用した先進教育といっても、先生が対応しきれないのでは。

GIGA スクールサポーターの活用・確保の検討が必要。

青砥委員：スクールサポーターの金額の考えは。

学校教育課長：期間はこれからの契約のため7ヶ月としてある。金額は近隣町村で採用している状況を参考に算出している。

委員長：最後に課長の考え・意見を求める。

学校教育課長：令和3年度は電子黒板の購入を予定しているが、各教室に1台の設置をしたい考えである。

委員長：質疑これで終了し、授業見学に入る。

(教頭先生の案内により、2年1組社会・2年3組英語のタブレット使用の授業を見学)

(終了後、学校給食センター2階会議室へ移動)

委員長：給食センター所長に説明を求める。

(給食センター所長が資料に基づき説明)

委員長：何か質疑あるか。

吉田委員：「ふくしま旬の食材等活用推進事業補助金」だが、昨年と違うのか。

給食センター所長：今年から名称が変わった。内容の変更はなし。

吉田委員：補助金、県で増額する考えはあるか。

給食センター：ヒヤリング等で要望しているが、明確な回答はない。

吉田委員：地産地消がなかなか進まない。取り組みが必要。今までどおりでは変わらない。

給食センター所長：安定した農産物の供給が課題。農業従事者減少している。

吉田委員：農家にオファーをかけていないから見えない。年間作付け契約の広報・提案型の募集などすることも考えられる。例えば地区割で行政区長・老人会にお願いするとか。

添加物を少なくして、安心安全なものを提供するためにも。

給食センター所長：関係部署等と協議していきたい。

鈴木茂委員：使用する食材は入札で決めているのか。

給食センター所長：毎月見積をとり、入札で安い価格で決めている。

鈴木茂委員：入札だと安い価格になり、単価的に見合わないということがあるため、地元の農家では対応できず地産地消が進まない面がある。地元産に限り価格が相対価格にするとかの

仕組みが進めばよいのでは。

給食センター栄養教諭：地場産は道の駅が窓口になっており、入札は別に行っている。道の駅から納入できるものは優先している。ここ数年で以前に比べれば増えている。

鈴木茂委員：単価はどう決めているか。

給食センター栄養教諭：相場と比較し道の駅で損をしないようにしている。

金澤委員：町HPで今年度の献立表が更新されていない。

給食センター栄養教諭：紙ベースでは各家庭へ配付しているが、HPは更新されていない状況。教育委員会と調整する。

青砥委員：子どもの数が減少しているので給食供給量は減っている。今後の所長の考えは。

学校給食センター所長：メフォス・調理員スタッフは以前からの方である。委託料（人件費）を急に減らすことはできないと思われる。

青砥委員：どこかの段階で基準をつくってほしい。

これだけの調理できるキャパがあるのだから、一人暮らしの老人への供給はできないか。一日1回夕方とか。そういう方法もあると考えられる。

鈴木茂委員：食べ残しはどのくらいあるのか。ピーマンを使ったメニューが8月にあるが、子どもたち食べてもらえるのか。

給食センター栄養教諭：残食毎回計量している。メニューによるが平均6～7%台。目標は5%台である。ピーマンだが、時期の野菜なので取り入れる。嫌いなものだから出さないのではなく、食べ慣れることも必要と思っている。

鈴木茂委員：食物アレルギーメニューの人数は。

給食センター栄養教諭：現在5名。こども園2名・埴小2名・埴中1名である。

食数が減ったから調理員を減らすことにはならない。アレルギー対応に手がかかる。現在も余裕がある状況ではない。

給食センター所長：アレルギー対応調理は一人専属になる。

割貝議長：地産地消の課題は安定供給と価格。地元のを優先して使用するには予算がかかるが、そのためには決断が必要。

副委員長：メフォスの調理員、地元の方を採用優先してほしい。

給食センター所長：地元最優先で対応いただいている。

委員長：これで質疑終了する。

（給食試食・小学校高学年メニュー）

（駐車場に移動）

副委員長による閉会

埴町議会委員会条例第27条の規定により署名する。

令和 年 月 日

総務常任委員長